

身延の鐘に想ふ

黒澤龍正

沼の面は煙のやうに濃んで來て暴君達は日暮れに氣付く。もうその頃は青い融蜂の影も消えて、足許でなびくほへけたツバナの穂が白々と夕闇の底に浮いてゐるだけ……。

早くかへろ、蝮蛇の眼が光るよ

誰かが唄ふやうに呟鳴ると、みんな一聲にワイ／＼と逃げ出す程夕暮の沼は無氣味で醜怪で子供の私達には恐しかった。然し私達は同志を集めては夕暮も忘れて沼畔に悦樂の毎日を送つたのだつた。

高等小學校へ入學すると家が轉居して新しいグループが私の周圍をとりまき、彼等との交渉が遠くなると、私の記憶からも何時しか薄れ去つた沼や人だつた。

そして幾年かの或る晩夏、河原へつづく薄暮の小路で私は陸しさに自轉車で行く二人の中學生に遭遇した。軽い驚きに聊か狼狽してしまつたのである。見違へる程スマートに成人して男を上げた一人は忠雄君だつた。彼は私を忘れたのかベタルを踏んで去つてしまつた、が私はふと彼と對峙したツバナ咲く青い沼を想起した。晩夏の空に湧く入道雲を見て私は沼を畫いた。久しく忘れられた沼、過去の童子の夢を包んだ晩夏の沼。暴君の顔。無性に沼を想ふ心は暴君彼等への憧れかも知れない。春秋の隔りは私と暴君達とを引き離してしまつたけれど、沼を想ふ幼時の追憶は不思議に離れた暴君を懐しい雰圍氣の中に溶け込ましてくれる。私は沼を想ふ。そして幼時の追憶にひたる。

(一)

吾々は笈を延嶽に背負つて已來常に永遠に鳴り響く梵鐘の音を聴く。宗祖棲神の靈山をして、より以上に靈格たらしめるものはあの梵鐘の音である。恰度それは祖師弘傳の正法が末法濁惡の世相を打破せずんば鳴り止まぬが如く鳴り渡るのである。靈山身延に居住する者は勿論日々に參詣する老若男女をして、より以上に法悦慈愛の泉を涌かせしめ、澆季混濁の世に處する力強き羅針を與へしめんとして鳴り渡るのである。

大自來の活動が開始されんとして東天杳かに白み鷄聲黎明を告げんとする時、清冽な晨の大氣を打破つて韻々と鳴り響く鐘の音、吾等は之によりて覺醒し鼓撫されて自己特有の戰場に向つて勇ましい活動を開始するのである。若しも吾々が一朝でもあの朝空に響く鐘の音を耳にしなかつたなら、如何なる寂漠さと空虚さを痛感する事だらうか。

野に出て働く農夫の背にサン／＼と慈愛の光りを注いだ太陽も、秋空に眞紅なる光線を残して西山に没すると早や物寂しい木枯に似た夕風が山野を馳け廻る。秋！澄透つた秋の玲瓏さを増した夜空に望郷の懷を物かなしい雁の鳴く音に托した時、弧を畫いて山野にひびき渡る靈境の梵鐘、其處には拘めども盡きざる詩の泉もコン／＼と沸いて來るのである。

晨には生活向上への精進を促がし夕べには其の日の疲勞を慰すべく詩の仙境に遊ばし夜は悲母の子守歌をなすもの、それは延嶽に永劫に鳴り響いて止まぬ梵鐘の音である。永劫の音、それは久遠の生命である。吾々負笈の徒、この梵鐘の音を搖籃として朝には獅子王の勇猛心を起して行學二道の達成に力め夕には靜寂不動の安心を觀じ以て久遠の生命を自覺し正法弘通末法濁惡の闇を開拓せねばならぬ。

弧を描いて鳴り渡る鐘の音の韻、その韻の一つ一つを吾々の手によりて建築傳播しやうではないか。(3)

事變に際して日持上人を思ふ

阿部東洋

永仁三年一月、日持上人四海歸妙の聖教廣布の爲に單身蝦夷を發て滿洲蒙古の地に留錫し給ひてより茲に六百五十有餘年、此の支那事變に對して吾徒は日持上人に何を學ぶべきでせうか。それは宗祖上人の

「日は東より出でて西を照す、佛法も亦かくの如し。佛法必ず東土より出づべきなり」

をこの事變を契機として實現し、法華經精神による親日東洋平和の基礎を建設す重任ある吾等は、切に持師の信念と意氣と其の勇猛心とを學ぶべきであります。

佛教では因縁の稀濃が重大なる役割を示めして居るが、古來日支間は地勢上、民族上、文化上、殊に佛教に於て因縁淺からざる宿縁の間柄であります。茲に於て正義に惑ふ曖昧なる支那を救済することこそ吾等法華經の行者のとるべき急務では無いでせうか。日支の確乎なる握手提携こそ眞にアジア平和の確保される時であると信ずる者であります。

今や聖戰一年有餘、抗日の主都陷ち武器糧食の咽喉たる南支止めを刺され第二の都武漢正に浮藻草の如き存在となつて居ります。然るに蔣政權未だ惡夢破れず英ソに媚び抗日を叫び長期抗戰を夢見て居ります。之れ日本國民の熱し易く冷め易い短所を突いた予であります。之れに對して我國の日本精神發揚、即ち精神總動員は盾でありますが要するに思想戰の對峙であります。

思ふにこの聖戰は日本精神の發露であり「毒氣深入」の支那をして毒手より救はんとする良醫の破邪顯正のメスであり、法華經精神の顯れであります。日本は正法の國、正氣の國、正信の國であり、之を彼等の胸奥植え付けるのは吾等に與へられた天與の任務であります。

今後に来るべき文化工作に於て、思想對策に於て眞に日本主義を高揚し支那否東洋平和を遂げる者、吾等日蓮宗徒は日持上人大陸順化の大勇猛心を奮起して思想善導以つて四海歸妙の實現に努力邁進しようではありませんか。(2)